

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103839
法人名	中江報徳会
事業所名	グループホーム サンひまわり
訪問調査日	平成20年7月7日
評価確定日	平成20年9月12日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103839		
法人名	中江報徳会		
事業所名	グループホーム サンひまわり		
所在地	鹿児島市下伊敷1丁目44番11号 (電話) 099-218-2045		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成20年7月7日	評価確定日	平成20年9月12日

【情報提供票より】(20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12人, 非常勤 4 人, 常勤換算 15.3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	62 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 玉水会病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家族や知人が訪問しやすい交通の便の良い市街地にありながら、近くに県立短大、小学校などもあり静寂な環境にも恵まれている。利用者は日常的に緑豊かな都市型公園の散歩や、地域行事や公民会活動にも参加し思い思いの暮らしができています。協力病院との24時間緊急対応の医療連携体制が確立され、職員と利用者は広すぎない生活空間を活かし寄り添いながら、足し算・引き算・音読など頭の体操を楽しみ、趣味、特技も活かし、明るく生き生きとした生活を送っている。職員は理念に沿い、利用者を人としての尊厳を守りながら支援している。季節感のある美味しい献立、気持ちの良い入浴、清潔な寝具などにも配慮がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善項目に優先順位を掲げ、対策を話し合い、改善策をまとめ質の高いサービス向上に活かしている。現在、改善記録や改善シートを作成し、活用している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、職員は評価の意義を理解している。自己評価は職員全員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に地域代表者も参加し、開催されている。内容は外部評価の結果や利用者の現状報告(事故報告書、ヒヤリハットを含む)を行い、参加者からの意見や助言をもらっている。意見や助言を改善につなげ、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見、苦情は面会時や行事に参加された際、常に傾聴している。また、運営推進会議の場でも家族からの意見や要望を聴いて職員間で話し合い、適切に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、積極的に地域の行事に参加している。学生の実習体験やボランティアも受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念を踏周し、事業所独自の方針をつくりあげている。その内容も適切であり事務所などにも掲示し、いつでも確認できるようにしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や分科会(職員会議)で運営方針を復唱し、日々のサービスに取り組んでいる。		短期的目標を分かりやすい言葉でつくり、実践・達成の喜びにつなげ、より充実したサービスの質の向上に期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、おはら祭りに参加したり小学校の運動会応援に行ったりしている。利用者とともに公民会活動のホウ酸団子作りやリボン風鈴作り、ハンドベル演奏会などにも参加している。屋内外行事やレクリエーションに地域のボランティアの協力をもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の改善項目に優先順位を掲げ、対策を話し合い、質の高いサービス向上に努力している。今回の自己評価についても、職員全員で取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果や利用者の現状報告(ヒヤリハット、事故報告)、および地域の代表者、家族、利用者の要望、助言をもらいサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りを持参し、ホームの現状や取り組みを伝えている。諸手続きについて市町村の助言も得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書とともに園便りや利用者担当職員のコメントおよび利用者の家族へのメッセージを郵送している。また、家族の来訪時にも必ず状況報告している。金銭出納帳は確認の上、印鑑やサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが各行事に家族参加の機会をつくり来訪を促している。家族の面会時には状態報告とともに要望を聴いている。また運営推進会議でも家族からの意見や要望を聴き、対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間、職員の離職は無い。日頃より1階2階の行き来があり、顔見知りになっている。職員全員が情報を共有し、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会、外部の研修に参加している。全職員交代で受講し、職員会議で研修報告し、共有を図っている。職員は資格取得に意欲的で法人も支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム協議会の勉強会や交流会に参加し、他のグループホームと情報交換を行い、サービスや職員の質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に自宅や入院先を訪問し、面接を行い、不安や思いを受け止め信頼関係をつくる努力をしている。また、本人、家族にホームを見学してもらい雰囲気になじんでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意(調理の下ごしらえ、洗濯ものたたみ、似顔絵、習字など)なことを活かし、楽しみや意欲を持たせている。特技(歌、踊りなど)を披露する場や皆で楽しむ(もちつき、団子作り、漬物など)場を提供している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや要望の把握に努めている。困難な場合は家族からの情報、表情、体動などから読み取り、職員間で申し送りやミーティング時に本人本位に検討する機会を持っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から要望を聴き、アセスメント、モニタリングなど全職員が意見を出し合い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の評価を行い、本人、家族の要望を取り入れ、期間が終了する前に見直しを行っている。状態変化時にはその都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて買い物同行や美容院、受診同行、送迎など行っている。訪問医療・看護を利用し、入院回避できている利用者もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、協力病院と医療連携体制をとり、24時間体制で対応できている。希望により訪問歯科診療もしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、看とりについてホームの方針を説明している。「看とり」の看護が必要になった際は医師が状態を説明し、「看とりに関する指針」に基づき、同意をもらい本人、家族、職員が話し合い、全員で対応を共有する。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時本部で誓約書をとっている。勉強会でも個人情報について感じた事、取り組んでいきたい事を書いてもらい、職員の意識向上を図っている。個人記録や利用者に対する言葉かけなど、対応に対しては常に気を配っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、日中の過ごし方など利用者のペースで過ごせるように柔軟に対処している。買い物、ドライブ、散歩など体調を見ながら希望にそった支援ができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者とは買い物から調理の下ごしらえ、盛り付け、後片付けまで一緒に行っている。テレビは消して、食材を話題にしながら楽しく食事を摂っている。利用者の体調に合わせた食事内容、食事介助ができています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階(火、木、土)2階(月、水、金)で希望があればいつでも利用できるように配慮している。入浴の順番をくじびきで決め、一人ひとりが納得できるように対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ、洗濯物干し・たたみ、計算ドリル、新聞購読、習字など利用者の趣味や特技を発揮できるように支援している。ベランダに季節感のある花やナス、キュウリを植え草取りや収穫を楽しむ利用者もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に地域の公園や短期大学のキャンパスを車イスなど利用して散歩をしている。車利用の買い物も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけないケアの重要性を認識している。見守りで自由な暮らしが出来るよう、また家族や地域の人が気軽に出入りできるよう、支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の防災訓練を実施しマニュアルの確認を行っている。災害時の避難場所を決めて年2回消防署との総合防災訓練を行い、地域の協力が得られるよう、働きかけている。災害時の備蓄もされている。心肺蘇生法の実施訓練も職員全員体験し、自信につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分補給の管理ができています。法人の管理栄養士に献立表をチェックしてもらい、栄養バランスを把握しています。食欲不振の利用者に対してもバランスよく量を減らし、完食できた喜びをもたせるなど工夫、配慮ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は木目調で、床張りは衝撃を和らげるクッション感覚になっていて、温かみを感じる。廊下やトイレ、浴室内は手すりが設置され、また食堂は畳の居間を改造し、車イスの利用者が自由に移動できるよう工夫され、安全に居心地よく過ごせる共用空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所つきの部屋でベッド、タンス以外は利用者のなじみのあるテレビ、イス、仏壇、習字道具などを持ち込み、個性あふれる居室になっている。寝具はリースを利用し、清潔に保たれている。		